



地域おこし協力隊って？

都心部から人口減少や少子高齢化などの課題を抱える地方へ移住し、地域の新たな担い手として農業・事業承継・情報発信などの「地域協力活動」を行いながら、地方への定住を目指す取り組みです。任期はおおむね1～3年。小坂町では現在4名の隊員（石橋辰耶、猪野直子、齋藤慶顕、田代俊之）が活動しています。最近の活動内容を紹介いたします！

◆4月から新たな協力隊員が加わりました！

4月1日より小坂町の地域おこし協力隊にまた新たな仲間が加わりました。町に残る明治期の近代化産業遺産を観光に活かす「明治百年プロデューサー」として着任された田代俊之さんと、「小坂七滝ワイナリー」でのぶどう栽培とワイン醸造に従事し、グリーンツーリズムの推進に取り組む齋藤慶顕（やすあき）さんです。

田代俊之さんは神奈川県藤沢市出身。藤沢市役所に25年勤務し、「藤澤浮世絵館」や「藤沢宿」などで文化財の活用に関わられた経験があり、スペイン・マドリードの大学院で文化遺産の管理についても学ばれています。「明治百年プロデューサー」の募集を知り、「これしかない」と思われたそうで、「小坂町にある大切な文化遺産を再発見し、それを活用することは、次の世代に歴史を引き継ぐ始めの一歩だと思う」と話されています。

齋藤慶顕さんは小学2年生までを秋田県大館市で過ごし、その後は東京都で育たれたという方です。都内のイタリアンレストランでの勤務経験があり、ワインが大好き。ぶどう栽培やワイン製造に関わりながらワインを勉強し、「町のワインを県外に広めていきたい」と意気込まれています。いずれは「ソムリエの資格も取りたい」とも。小坂七滝ワインをますます盛り上げていってほしいそうです！

この冬は記録的な積雪でしたが、ようやく残雪も消えました。お2人が早く小坂町に慣れて、町での初めての春を楽しまれるようお願いしています。4人体制の協力隊を、今年度もよろしくお願いいたします！



小坂町かぶきん

後藤副町長より辞令交付を受ける
田代俊之さん(左)と齋藤慶顕さん(右)

田代さん撮影。旧小坂鉄道の線路

◆「地域おこし協力隊活動報告会」開催

3月15日（土）、小坂町交流センター・セパームで「令和6年度地域おこし協力隊活動報告会」が開催されました。この会は、3名の協力隊員が主に小坂町民のみなさまへ向けて、日頃の活動内容や今後の展望について報告するもので、小坂町では初の開催となりました。当日は町内外から20名の方が来場され、協力隊員の報告に耳を傾けてくださいました。

猪野直子隊員は、移住・定住推進イベントへの参加やSNSを活用した情報発信などの活動について、石橋辰耶隊員は、ワインの製造に関わって感じたことや山ぶどうワインのポテンシャルの高さなどについて話しました。

3月で協力隊の任期を終える熊澤圭祐隊員からは、3年間携わってきたぶどう栽培やワイン醸造の作業工程や苦労した点、卒隊後も引き続きワイン醸造に関わっていきたい意向などが発表されました。

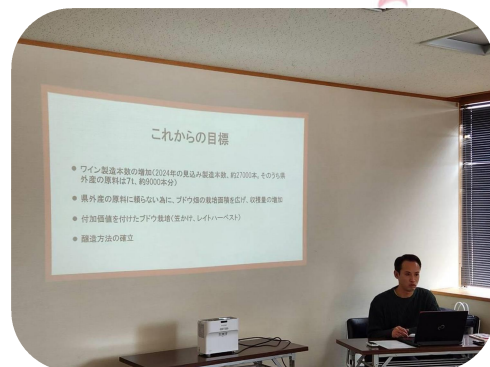
その後、小坂町での暮らしや魅力、「小坂町にあったらいいもの」などについて3名でトーク。全員が、通勤ストレスゼロで周囲に当たり前に自然がある小坂町の環境に心が安らぐ、という点で一致。また、町内に「ベーカリー」「立ち飲み（ワインが飲める店）」「冬や悪天候の時でも子どもたちが遊べる屋内施設」がほしい！などと話し合いました。石橋隊員は将来的に飲食店や宿泊施設のアイディアがあるそうなので、大いに期待・応援しましょう！ご参加くださったみなさま、感想や質問をお寄せくださったみなさま、どうもありがとうございました。



【猪野】曾祖父や祖父母が小坂町に縁あり



【石橋】山ぶどうワインはポテンシャルが高い。日々の作業はよい筋トレ！



【熊澤】今後はさらにぶどう畑の栽培面積を広げ、収穫量を増やしたい



◆協力隊 Instagram のフォローをお願いいたします

地域おこし協力隊員が日々の活動や小坂町での暮らしについてつぶやいています。新人2名もこれからどんどん発信予定！



@KOSAKAKYORYOKU



「小坂町地域おこし協力隊かわら版」はおおむね毎月10～15日ごろにゆるく発行予定です。みなさんの小坂町での暮らしや取り組み、イベントなどの情報をお知らせください！

編集・発行 小坂町総務課企画財政班（地域おこし協力隊 猪野） 0186-29-3907